

今年も早 2 カ月が過ぎましたが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかりと身に付けていただく【亀さん通信】第 125 号発信！

日本政府は真実を語るべき！

国税庁の発表によると、**2014 年末までに NISA 口座を開設した人は約 834 万人**。2015 年中には、さらに 17.5%増加して 979 万人に達すると見込まれています。今回は、野村総合研究所（以下、野村総研）が 1 月に実施した調査結果を通して、NISA や投資について考えてみましょう。

野村総研が実施した「NISA の利用実態調査」（有効回答数 7,000 人）によると、今まで投資の経験がなく、2014 年に投資を始めた新規投資家のうち、**NISA 口座で投資を始めた人は 52.5%**。新規投資家の過半数は、NISA をきっかけに投資を開始しているようです。

NISA 口座開設者を投資経験別、年齢階層別に見ると、既存投資家は 60 代以上が 57.8%を占めているのに対し、新規投資家は 50 代以下が 61.7%を占めています。その中でも、新規投資家における 20 代、30 代の占める比率はそれぞれ 14.3%、17.2%で、既存投資家の 2.6%、8.3%よりも高くなっています。NISA 利用に関しては、経験のある高齢者層が先行していますが、今後、**若年層が NISA をきっかけに投資を始める**ことが期待できる結果となっています。

NISA 口座を開設した新規投資家に、「投資前」に持っていたイメージと「投資後」に持ったイメージを聞いたところ、明確な変化が起こっているようです。投資前は、「素人には難しい」（51.2%）、「不安・心配である」（47.8%）、「リスクが高い」（45.9%）が上位を占めていましたが、投資後はその比率が減り（それぞれ 15.8%、15.6%、11.8%）、代わりに投資前に低かった「銀行に預けるより得」（15.0%）、「資産形成に役立つ」（10.2%）が、投資後に 46.8%、42.6%と大幅に増加する結果となりました。投資を開始するまでの心理的ハードルを乗り越えると、**投資が身近な財産形成の手段である**という意識が高まることがうかがえます。「案ずるより産むが易し」とは、よく言ったものです。

ところで、世界に類を見ない少子高齢時代が我が国に到来します。本当に年金で暮らしていけるのか…。老後に対する不安は尽きません。イギリスでは、2002 年に年金委員会が設立され、3 年間で膨大な報告書を作成しました。その趣旨は「**公的年金では国民の老後の生活をすべてカバーできない**」というもの。突然の宣告に、大半の国民はさぞや落胆したことでしょう。しかし、イギリス政府は迅速に動きました。その時点から**個人で資産形成するための様々な施策**が矢継ぎ早に制定されたのです。勤労者全員が加入できるように仕組みを整えた確定拠出年金制度の導入、年金口座への非課税拠出額の大幅引き上げ、ISA（NISA の手本になった制度）の拡充などです。つまりイギリス国民は、**老後に備えるための十分な投資手段と時間**を手にしたのです。

一方、日本はいまだに「**100 年安心年金**」を謳っています。主要先進国と比較して、厳しい財政状況にあるにも関わらず…。100 年安心は、年金制度が維持できるから安心なのではなく、**年金で生活できるから安心**でなければならないはずですが。いずれにしても、多くの国民は老後の生活費を年金で賄いきれるとは信じていないでしょう。さらにいえば、政府はこここそ「自助努力が必要」と発表すべきかもしれませんが。アメリカでも、イギリスでも、そういった政府の正直な現状認識が、**国民の資産形成を後押し**しているのですから。切羽詰まってからでは、すべてが遅いのです…。

日本がアメリカやイギリスのようになるとは限りませんが、諸事情を考えると**確度の高いシナリオ**と言わざるを得ません。投資の経験もなく、何の準備もしていない状態で、もし日本政府がお手上げしたら…。備えあれば憂いなし。**なるべく早くから投資に慣れておきたい**ものです。

花粉症の方にとっては、辛い季節がやってきましたね…

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミルト) 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com

